

予報期間 11月13日から11月19日まで

◆今期間のポイント

＜主要しょう乱の概要＞

- 台風第26号については最新の台風予報を参照。
- 15日は、高気圧が日本付近へ移動する。東シナ海の前線は南下して沖縄付近に停滞する。
- 16日は、高気圧が日本の東へ移動し、低気圧が日本海北部へ進む。
- 17日は、低気圧が発達しながらオホーツク海へ進み、日本付近は西高東低の気圧配置となる。
- 18日は、低気圧がカムチャツカ半島へ進み、大陸の高気圧が東シナ海へ張り出す。日本付近は西高東低の気圧配置が続く。
- 19日は、高気圧が東日本付近に移動する。

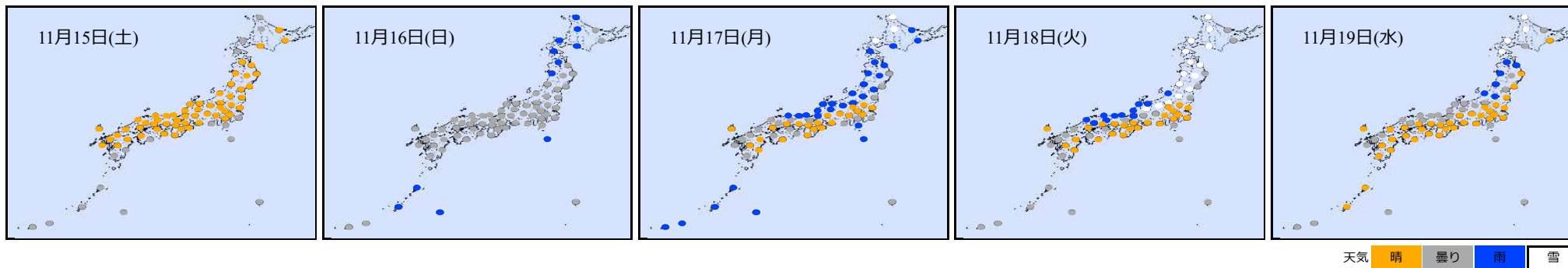
＜防災事項＞ 11時、17時発表の早期注意情報に合わせて当項目は修正する場合があります。

- 17日頃は、北日本では発達する低気圧の影響で荒れた天気となり、低気圧の発達の程度等によっては大荒れや大しけとなるおそれがある。

※最新の早期注意情報、気象情報、台風予報も参照ください。

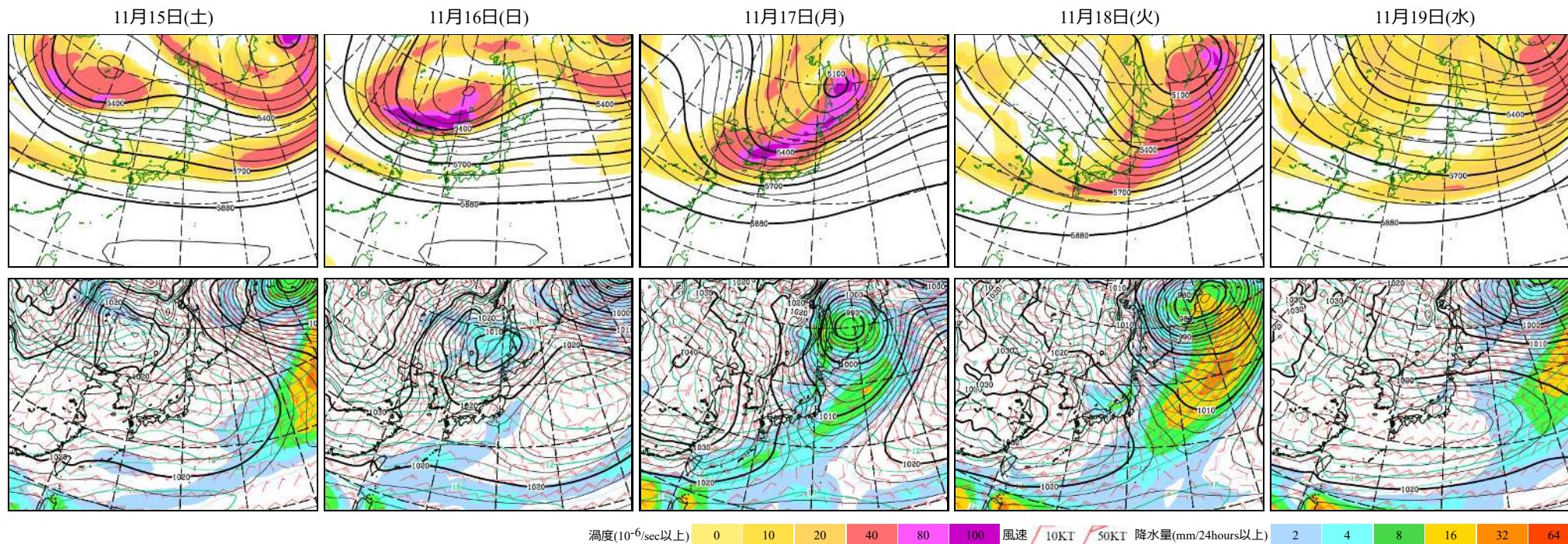
以下の資料は、気象事業者等が、気象庁の提供する週間天気予報の根拠を理解するための補助資料であり、そのままの形式で一般に提供することを想定して作成したものではありません。

◆10時時点の3～7日目の天気予報案 (11時以降は気象庁HP等にて発表予報をご利用ください。)

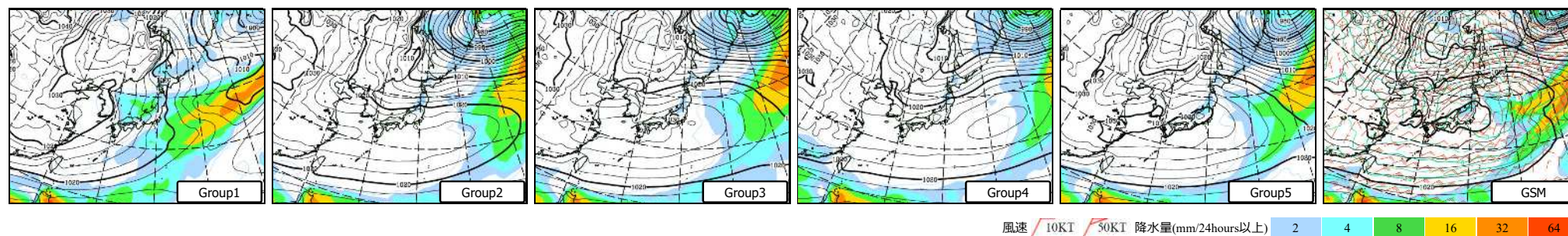


- 北日本と東日本日本海側は、曇りや雨または雪の降る日が多いが、15日は晴れる所が多い。
- 東日本太平洋側は、晴れまたは曇りの日が多いが、16日と17日は雨の降る所があり、17日と18日は山間部では雪の降る所がある。
- 西日本は、晴れまたは曇りの日が多いが、17日と18日は雨または雪の降る所がある。
- 沖縄・奄美は、曇りや雨の降る日が多い。

◆アンサンブル(ENS)平均予想図 上図：500hPa高度線、渦度 下図：海面気圧、地上風、前24時間降水量(21時)



◆11月19日のENSクラスター平均(グループ1~5)とGSMの地上予想図 海面気圧、地上風(GSMのみ)、前24時間降水量(21時)



◆昨日資料からの変化と予想のばらつき

- 最新のアンサンブル資料(ENS)は、初期値変わりは小さいが、15日から16日にかけて本州付近から日本の東に移動する高気圧が強くなり、18日は大陸の高気圧の日本付近への張り出しが強くなった。
- 降水確率ガイダンスの値は、15日は沖縄・奄美で小さくなった。
- スプレッドは期間の後半は大きい。
- 18日のカムチャツカ半島付近の低気圧の位置はモデル間に差がある。

◆ENSからの修正点とサブシナリオ等の補足事項

- 予報は、おおむね最新のENSを基に考える。